7	昭50. 6. 4	通婚圏問題	篠崎 信男 技官
8	昭50. 6. 11	人口における身体障害者の問題	高橋 重郷 技官
9	昭50. 6. 18	出生児数追加確率の分析	青木 尚雄 技官
10	昭50. 6. 25	わが国女子の労働力生命表（試算）	金子 武治 技官

資　料　の　刊　行

（昭和50年4月～6月）

<資料題名(発行年月日)>　　<担当・協力者>

○「研究資料」第210号（昭50. 6.15）

わが国世帯数の将来推計　昭和45年～75年，10月1日現在

昭和50年5月暫定推計……伊藤 達也 技官，山本千鶴子技官

○人口問題研究所昭和49年度事業報告書（昭和50年5月）……人口政策部政策科・資料課・庶務課

第27回日本人口学会大会

日本人口学会の第27回大会は，昭和50年6月27(金)，28（土）の両日にわたり，関西大学会館（大阪府吹田市）の4階大集会室において開催された．今回の大会は，関西大学市原亮平教授を委員長とする大会準備委員会の多大の努力によって，盛大な大会日程を終了した．会員参加者は93名に上り，本研究所からも多数の関係者が出席した．

研究発表会における一般報告，シンポジウムの題名および報告者を記すと次のとおりである．

第1日（6月27日）

○一般報告

1. わが国の人口成長と経済発展……山口 三十四（神戸大学）
2. 通婚圏の諸問題……篠崎 信男（人口問題研究所）
3. 人口移動における進学人口……岡田 真（駒沢大学）
4. 大都市地域における住居移動……岸本 実（立正大学）
5. 都市化と人口移動の一考察――東京大都市圏の場合……谷 勝英（明治学院大学）
6. 年齢別人口移動に対する所得較差効果の測定……中山 雅彦（㈱フジミック），鈴木 啓祐（流通経済大学）

○シンポジウム

「世界の中の日本の人口問題」……座長…村松 稔（国立公衆衛生院），市原 亮平（関西大学）

1. 問題提起……黒田 俊夫（人口問題研究所）
2. 人口と食糧……畑井 義隆（明治学院大学）
3. 人口と社会福祉……倉田 和四生（関西学院大学）
4. 人口と経済発展……川久保 公夫（大阪市立大学）

討論者……中島 千尋（京都大学），東田 敏夫（関西医科大学），猪木 武徳（大阪大学）

第2日（6月28日）

○一般報告

7. ニホンザルのデモグラフィー……増井憲一（京都大学）
8. 世代生命表と普通生命表との組合せ利用による生命表の作成法——1899年と1904年に生れた人々の場合——……飯淵康雄（東京医科歯科大学）
9. 都道府県別にみた健康度と労働力としての平均余命——昭和40年，45年男子……南条善治（福島県立医科大学）
   重松峻夫（福岡大学）
10. 昭和45年都道府県別標準化死亡率……植松稔（北里大学）
11. 1965年配偶関係別生命表……山本文夫（佐賀大学）
12. 1970年日本人死亡の生態……山本幹夫（帝京大学）
   沖野哲郎（〃）
   寺尾浩明（〃）
   山田和枝（〃）
13. わが国女子の労働力生命表（暫定）……金子武治（人口問題研究所）
14. 農林漁業従事者の人口老齢化の計測について……高木尚文（成城大学）
15. 日本近世農村の人口——事例報告——……松田武（大阪大学）
16. 出生抑制動向のモニタリングについて……小林和正（京都大学）
   松永英（国立遺伝学研究所）
17. 人口調節と基本的生存権……長倉功（朝日新聞社）
18. 大都市における最近の出生力の動向——厚生省人口問題研究所「第6次出産力調査」の結果——……高橋真一（神戸大学）
19. 出生児数追加確率の分析……青木尚雄（人口問題研究所）

なお，永年日本人口学会のために尽瘁され，先頃逝去された元常務理事水島治夫博士の追悼講演（丸山博会員による）を行ない，参会者全員そのご冥福を祈った．（山口喜一記）

1973年世界（主要地域）人口

国際連合統計局（Statistical Office of the United Nations）は，先頃，『世界人口年鑑（*Demographic Yearbook*）』の1973年版を発表した．今回刊行された年鑑は，1948年の第1集から数えて第25集目に当たる．この人口年鑑は，毎回トピック主義の編集が行なわれ，今回は一昨年および昨年版に続く「センサス人口統計Ⅲ（Population Census Statistics Ⅲ）」特集となっている．なお，1973年版についても日本語版が刊行される予定である（国際連合統計局編，黒田俊夫翻訳監修，『世界人口年鑑，1973』，1975年7月末頃㈱原書房発行）．

今回の年鑑によると，1973年の年央時点における世界総人口は38億6,000万人となっており，1965～73年の人口増加率は年平均2.0％（出生率は人口1,000につき34，死亡率は同じく14と推定されている）で，このままでいけば，人口は2008年頃までに倍増することになる．

世界人口の大陸別内訳は，アジア22億400万，ヨーロッパ4億7,200万，アフリカ3億7,400万，ラテンアメリカ3億900万，ソビエト連邦2億5,000万，北アメリカ2億3,600万，オセアニア2,060万である．ヨーロッパの面積は世界総面積のわずかに3.6％にすぎないが，ここに世界人口の12.2％が住んでいるから，人口密度は1平方キロメートルについて96人に上り，大陸別の最高を示している．アジアの面積は世界の面積の20.3％であるが，ここに世界人口の57.1％が住んでいるから，その人口密度は80人で，ヨーロッパに次